

京都市伏見処理区大規模雨水処理施設整備事業計画

(様式1)

項目	内容・施策等
選定理由	<p>伏見処理区の合流式下水道区域は、京都市の南部において古くから下水道整備を進めてきた市街地を含み、商業・業務施設、住宅地など人口が集中する地域である。雨水整備水準は概ね5年確率降雨に対応し、現在は10年確率降雨に対応できるよう、順次レベルアップを図っているが、近年、局地的大雨等により浸水被害が発生していることから、早急な浸水対策が急務である。なお、当地区では、平成28年9月に床上浸水2件、床下浸水25件など、区域の各所で浸水被害が発生している。</p>
整備目標	<p>①本計画における対象降雨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本計画における対象降雨：61.5mm/hr（10年確率降雨） ・目標とする理由：雨水排水能力を増強し、浸水安全度の向上を図る。 <p>②目標設定</p> <ul style="list-style-type: none"> i)生命の保護の観点：当該排水区における、高齢者・障害者等要配慮者関連施設の浸水被害を防止する。 ii)都市機能の確保の観点：浸水被害を防止する。 iii)個人財産の保護の観点：家屋の浸水被害を防止する。 iv)その他：特になし <p>③ハード対策，ソフト対策及び自助の役割分担について</p> <ul style="list-style-type: none"> i)ハード対策 <ul style="list-style-type: none"> 施設整備により10年確率降雨である61.5mm/hrの降雨において、浸水被害を防止することを目的とする。 ii)ソフト対策及び自助 <ul style="list-style-type: none"> 下水道管理者による内水ハザードマップ作成・配布などの情報提供，地域住民等による自主避難訓練など，それぞれの主体が対策を実施することにより，被害をできるだけ小さくする。
内水ハザードマップ策定状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有（平成30年度全戸配布済み） ・ 策定予定（平成 年 月末策定予定）

項目	内容・施策等			
主な事業内容	公助	ハード対策	下水道管理者	・雨水貯留施設の整備 貯留能力 11,000m ³ (滞水地) 貯留能力 3,000m ³ (貯留管) ・雨水管渠の整備
			下水道管理者以外	・公共施設における雨水流出抑制対策 (水共生プラン)
		ソフト対策	下水道管理者	・水害ハザードマップの作成・公表 ・降雨情報の収集, 活用 ・各戸貯留・浸透の推進 (雨水貯留・浸透施設設置助成)
			下水道管理者以外	・防災危機管理情報館による情報提供, 活動支援 (防災) ・雨水流出抑制対策の普及啓発 (河川)
	自助	ハード対策		・各戸貯留・浸透施設 (京都市雨水流出抑制対策実施要綱)
		ソフト対策		・自主避難訓練 (通報・避難誘導・救護・土のう積み訓練等) ・雨水ます, 側溝の清掃 ・災害ボランティアとの連携

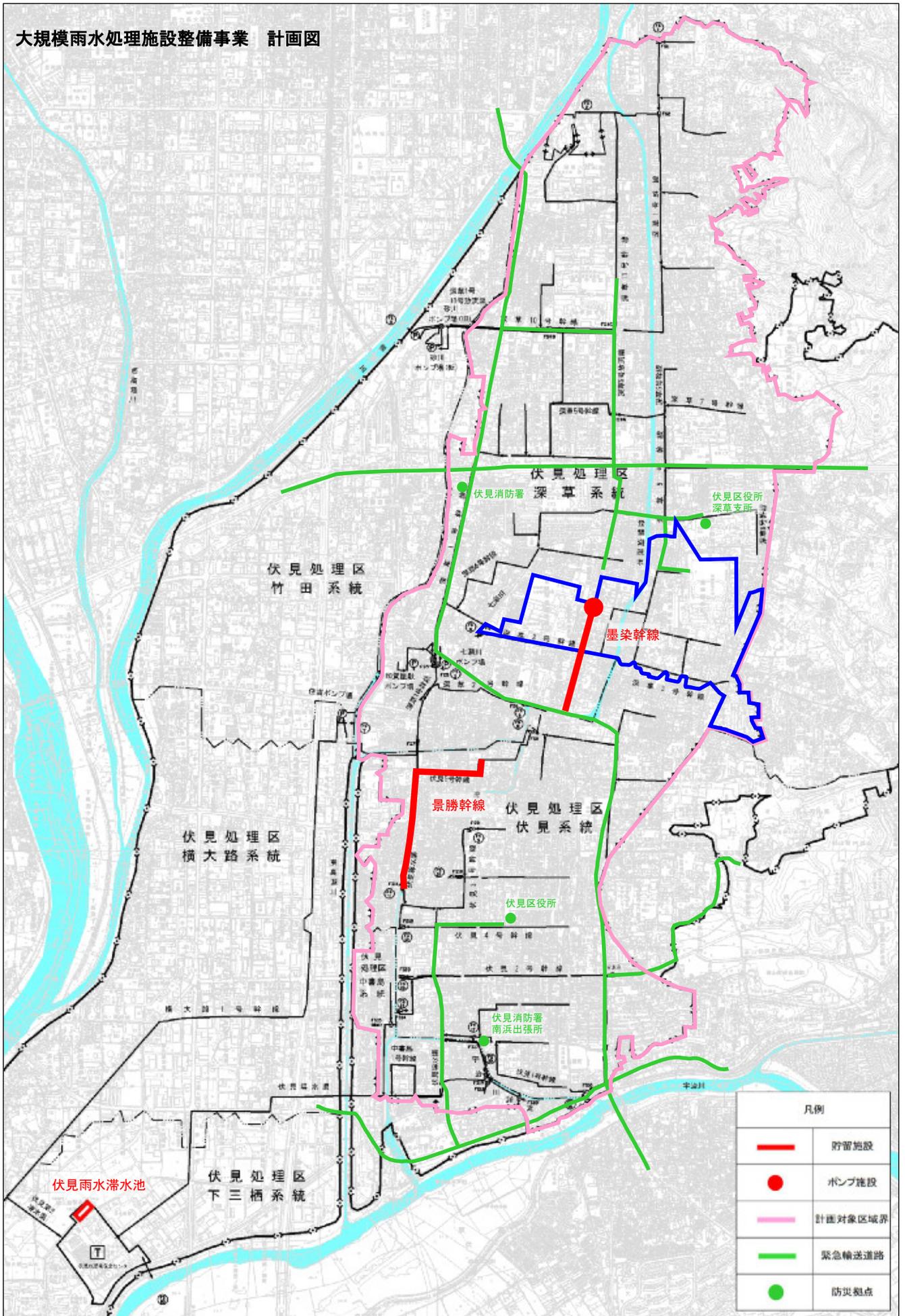
年度計画 (百万円)

名称	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	計
伏見雨水滞水池	200	600	1,200	1,300	200			3,500
墨染幹線					120	300	440	860
景勝幹線		450	550					1,000
計	200	1,050	1,750	1,300	320	300	440	5,360

項目	内容・施策等
整備効果	<p><事業評価の内容></p> <p>被害額：75,044百万円が削減される。</p> <p>B/C：2.8</p> <p>経済的内部収益率：10%</p> <p><その他の定量的な効果></p> <p>10年確率降雨対応雨水整備率：28.6% (平成30年度) →1.1%増加</p>

放流先河川との調整状況	特になし
その他	特になし

大規模雨水処理施設整備事業 計画図



凡例	
	貯留施設
	ポンプ施設
	計画対象区域界
	緊急輸送道路
	防災拠点